中国・四国地方

名前

問1　香川県の讃岐平野では、「大池」や「新池」といった名称の池が平野部に数多く散在しています。これらの池は「ため池」と呼ばれますが、この地域でため池が古くから多く作られてきた理由として最も適切な説明を選びなさい。（2025年 茨城県公立入試 類似）

1. 中国山地と四国山地に挟まれて季節風が遮られるため、年間を通じて降水量が少なく、農業用水が不足しやすいから。
2. 標高が海面よりも低い土地が多く、高潮による塩害を防ぐために真水を蓄えておく必要があったから。
3. 大規模な河川が平野部を流れておらず、雪解け水を利用することができないため、地下水を汲み上げる必要があったから。
4. 年間を通じて台風の通り道にあたり、一時的な豪雨による洪水被害を防ぐための遊水地として機能させる必要があったから。

問2　中国地方の製造業について、広島県では自動車などの輸送用機械の出荷額が大きな割合を占めるのに対し、山口県では約1兆9,780億円に達する化学工業の出荷額が、県内の他業種や近隣県と比較しても突出して高いという特徴があります。このような山口県の工業の形態について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 群馬県公立入試 類似）

1. 都市近郊の立地を生かし、食料品加工や印刷業など、消費地に近い利点を最大限に活用した中小工場が密集している。
2. 良質な鉄鉱石や石炭が近隣で産出されるため、それらを原料とした大規模な製鉄所を中心とする重工業が発展している。
3. 臨海部に石油精製所や化学工場などが集まり、原料や製品を効率的にやり取りする石油化学コンビナートが形成されている。
4. 内陸部の広大な用地に、電子部品や半導体を製造する先端技術産業の工場が高速道路沿いに集積している。

問3　愛媛県において、米や野菜など他の農産物に比べて、みかんなどのかんきつ類を含む「果実」の生産が非常に盛んである理由として、地理的な環境の観点から最も適切な説明はどれですか。（2022年 千葉県公立入試 類似）

1. 急な斜面が多く、日当たりや水はけが良い土地条件を活かして栽培が行われてきたため。
2. 冷涼な気候を活かして、他の地域では栽培が難しい高冷地野菜を生産しているため。
3. 広大な平野を活用し、大規模な機械を導入することで効率的な生産が可能になったため。
4. 年間を通じて降水量が非常に多く、常に大量の水を必要とする果実の栽培に適しているため。

問4　瀬戸内工業地域において、製造品出荷額等に占める「化学工業」の割合が全国平均（14.4%）を大きく上回る約20.5%（2021年）となっている理由として、最も適切な説明はどれか。（2025年 宮城県公立入試 類似）

1. 瀬戸内の温暖な気候で栽培される柑橘類などの農産物を加工する、大規模な食品加工団地が各地に整備されたため。
2. 阪神工業地帯に近接している利点を活かし、自動車や造船などの組み立てを行う機械工業が産業の大部分を占めるようになったため。
3. 内陸部の豊富な水資源と高速道路網を活かして、IC（集成回路）などの電子部品を生産する工場が数多く進出したため。
4. 大型船の入港に適した穏やかな海に面する臨海部に、原料の輸入と製品の出荷に便利な石油コンビナートが形成されたため。

問5　山口県の美祢市付近には、日本を代表するカルスト地形である秋吉台が広がっている。このような独特の景観が形成された理由と、その後の利用について述べた文として適切なものはどれか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）

1. 海底が急激に隆起してできた砂岩の地層が波の浸食を受けて形成され、現在は国立公園として観光利用のみに制限されている。
2. 激しい火山活動によって噴出した溶岩が平坦に固まって形成され、現在はその広大な土地を活かして牧畜が行われている。
3. サンゴ礁などが堆積してできた石灰岩の台地が雨水で浸食されて形成され、現在はセメントの原料として石灰石の採掘も行われている。
4. 河川が運んできた土砂が長い年月をかけて積もって形成され、現在はその水はけの良さを活かした果樹園が広がっている。

問6　本州四国連絡橋の3つのルートのうち、世界最長の吊り橋である明石海峡大橋を含む「神戸・淡路・鳴門ルート」における、2000年から2016年にかけての交通量と旅客輸送の変化について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2019年 兵庫県公立入試 類似）

1. 通行台数は1300万台前後で横ばいであるが、景気の影響によって貨物輸送量と乗合バスの旅客数はともに大幅に減少している。
2. 年間の通行台数が約427万台増加して1300万台を超え、徳島県と兵庫県の間を結ぶ乗合バスの旅客輸送人員も増加傾向にある。
3. 年間の通行台数は約427万台減少しており、それに伴って本州と四国を結ぶ移動手段は乗合バスからフェリーへと回帰している。
4. 通行台数は増加しているものの、環境保護の観点から大型の乗合バスの通行が制限されたため、旅客輸送の主体は鉄道に移行した。

問7　中国地方の瀬戸内海沿岸に位置する広島県の県庁所在地について、国の出先機関や民間企業の支店が多く集まり、その地方の政治・経済を支える役割を持つ都市の分類として最も適切なものを次から選びなさい。（2016年 岐阜県公立入試 類似）

1. 政令指定都市（ただし、地方中枢都市ではない）
2. 工業指定都市
3. 首都圏機能分担都市
4. 地方中枢都市

問8　1985年から2015年にかけての四国地方と他地域間の移動手段を調査した統計において、1985年には全体の一定割合を占めていた船舶の利用が減少し、代わって自動車が全体の約3分の2を占めるほどに急増しました。このような交通手段の変化をもたらした主な要因として正しいものはどれですか。（2020年 香川県公立入試 類似）

1. 格安航空路線の拡大により、人々の移動手段の大部分が航空機へ転換されたこと
2. 鉄道網の高速化が進み、自家用車よりも鉄道による移動が一般的になったこと。
3. 本州と四国を結ぶ3つのルートの本州四国連絡橋が完成し、陸上交通網が整備されたこと。
4. 瀬戸内海での船舶事故を防ぐために、旅客船の航行が全面的に禁止されたこと。

問9　かつて大阪・徳島間の移動はフェリーの利用を含め約650分を要していましたが、交通網の整備により約350分へと大幅に短縮されました。この変化が四国地方の農水産物の出荷に与えた影響について、最も適切な説明はどれですか。（2016年 福岡県公立入試 類似）

1. 高速道路の整備によって四国内の移動は円滑になったが、本州側への輸送距離が長くなったため、大阪市場への出荷量は減少した。
2. 瀬戸大橋の開通により岡山県を経由するルートが主流となったため、徳島県産の農水産物は四国内での消費が中心となった。
3. 本州四国連絡橋の開通によって輸送時間が短縮されたことで、物流が効率化し、鮮度が重視される農水産物の出荷量が増加した。
4. 鉄道網の整備によって大量輸送が可能になったことで、フェリーによる輸送が完全に廃止され、輸送コストが大幅に上昇した。

問10　日本の都道府県には、県名と県庁所在地の名称が一致するものと、異なるものが存在します。次の4つの県のうち、県庁所在地の名称が県名と一致している県はどれですか。なお、それぞれの県庁所在地は、水戸市、新潟市、金沢市、岡山市のいずれかです。 ・関東地方に位置する茨城県 ・北陸地方に位置する新潟県 ・北陸地方に位置する石川県 ・中国地方に位置する岡山県（2016年 長崎県公立入試 類似）

1. 新潟県と岡山県
2. 石川県と岡山県
3. 茨城県と新潟県
4. 茨城県と石川県

問11　1990年代半ばに本州四国連絡橋が開通したことは、愛媛県などの養殖業に大きな影響を与えました。この交通網の整備が養殖マダイの生産量を増加させた理由として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 福井県公立入試 類似）

1. 陸上輸送による輸送時間が短縮され、大消費地へ鮮度を保ったまま迅速に出荷できるようになったため
2. 橋の開通によって物流コストが大幅に削減された結果、養殖魚の販売価格を天然魚よりも安く設定できたため
3. 本州からの観光客が自家用車で直接買い付けに来るようになり、産地直送の販売額が卸売市場を上回ったため
4. 橋の建設に伴って沿岸部の埋め立てが進み、最新の設備を備えた大規模な陸上養殖場が次々と建設されたため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中国山地と四国山地に挟まれて季節風が遮られるため、年間を通じて降水量が少なく、農業用水が不足しやすいから。	讃岐平野が位置する瀬戸内地方は、北側に中国山地、南側に四国山地が位置しています。夏は太平洋側からの湿った季節風が四国山地に、冬は日本海側からの湿った季節風が中国山地に遮られるため、年間を通じて雨や雪が少なく、乾燥しやすい「瀬戸内の気候」となります。そのため、稲作などに必要な農業用水を安定的に確保する目的で、人工的に水を蓄える「ため池」が数多く作られました。
問2	答え 3 臨海部に石油精製所や化学工場などが集まり、原料や製品を効率的にやり取りする石油化学コンビナートが形成されている。	山口県の瀬戸内海沿岸地域は、戦後の高度経済成長期に大規模な埋め立てが行われ、石油化学コンビナートが建設されました。これにより、原油の輸入からエチレンなどの基礎原料の製造、さらにはプラスチックなどの二次製品の生産までを一貫して行う体制が整っており、化学工業の出荷額が他業種に比べて圧倒的に多い産業構造となっています。広島県の輸送用機械や、岡山県の鉄鋼・石油化学など、瀬戸内工業地域は県ごとに特徴的な産業が集積しています。
問3	答え 1 急な斜面が多く、日当たりや水はけが良い土地条件を活かして栽培が行われてきたため。	愛媛県では瀬戸内海沿岸を中心に山地が海に迫っており、その急斜面を「段々畑」として利用しています。傾斜地は平地に比べて日当たりが良く、さらに水はけも良好であるため、甘くて質の良いかんきつ類の栽培に最適な環境となっています。
問4	答え 4 大型船の入港に適した穏やかな海に面する臨海部に、原料の輸入と製品の出荷に便利な石油コンビナートが形成されたため。	瀬戸内海沿岸は、波が静かで水深が深いという自然条件から大型船が接岸しやすく、海外からの原料輸入に頼る重化学工業の立地に適しています。戦後、この有利な条件を活かして、石油化学製品などを一貫して生産する「石油コンビナート」が形成されたことで、製造品出荷額等における化学工業の割合が他の地域に比べて高くなりました。
問5	答え 3 サンゴ礁などが堆積してできた石灰岩の台地が雨水で浸食されて形成され、現在はセメントの原料として石灰石の採掘も行われている。	秋吉台のようなカルスト地形は、遠い昔のサンゴ礁などが石灰岩となり、それが地殻変動で陸地になったあと、二酸化炭素を含んだ雨水などによって溶かされることで作られました。この石灰岩は純度が高いため、建築材料や化学製品の原料となるセメントの重要な資源として、周辺では大規模な採掘事業が行われています。
問6	答え 2 年間の通行台数が約427万台増加して1300万台を超え、徳島県と兵庫県の間を結ぶ乗合バスの旅客輸送人員も増加傾向にある。	1998年の明石海峡大橋の開通により、神戸・淡路・鳴門ルートは本州と四国を結ぶ主要な交通路となりました。統計データによると、2000年から2016年の間にこのルートの年間通行台数は大幅に増加し、利便性が高まったことで高速バス（乗合バス）による旅客輸送も活発になっています。この変化により、かつて輸送の主役であったフェリーの利用が減少するなど、四国地方の交通体系に大きな影響を与えました。
問7	答え 4 地方中枢都市	広島市は、中国地方全体を統括する国の行政機関や民間企業の支店が集中しており、この地方の政治・経済の中心地となっています。このような都市は「地方中枢都市」と呼ばれ、他にも札幌市、仙台市、福岡市などが該当します。また、広島市は1980年に政令指定都市にも指定されています。
問8	答え 3 本州と四国を結ぶ3つのルートの本州四国連絡橋が完成し、陸上交通網が整備されたこと。	神戸・鳴門ルート、児島・坂出ルート、尾道・今治ルートという3つの本州四国連絡橋が整備されたことで、それまで船舶が中心だった四国と本州の間の交通が、自動車（自家用車、トラック、高速バス）へと大きく転換されました。これにより、天候に左右されにくい安定した輸送と、時間の短縮が可能になりました。
問9	答え 3 本州四国連絡橋の開通によって輸送時間が短縮されたことで、物流が効率化し、鮮度が重視される農水産物の出荷量が増加した。	本州と四国を陸路で結ぶ「本州四国連絡橋」が整備されたことで、それまでのフェリー利用に比べて移動時間が劇的に短縮されました。この交通網の変革は、特に鮮度が求められる真鯛などの水産物や野菜の輸送に大きな利点をもたらしました。輸送のスピードアップと効率化が実現した結果、徳島県などの四国地方から大阪といった大消費地への出荷が容易になり、市場での取り扱い量が増大する要因となりました。
問10	答え 1 新潟県と岡山県	新潟県の県庁所在地は新潟市、岡山県の県庁所在地は岡山市であり、どちらも県名と都市名が一致しています。一方で、茨城県の県庁所在地は水戸市、石川県の県庁所在地は金沢市であり、県名とは異なる名称が使われています。全国の約6割の都道府県では県名と県庁所在地名が一致していますが、北関東や北陸、近畿地方などでは異なる名称を持つ県が多く見られます。
問11	答え 1 陸上輸送による輸送時間が短縮され、大消費地へ鮮度を保ったまま迅速に出荷できるようになったため	本州四国連絡橋の開通は、四国から本州への物流に劇的な変化をもたらしました。それまでの船舶輸送に代わり、トラックによる陸上輸送が主流となったことで、目的の市場に届くまでの輸送時間が大幅に短縮されました。特に鮮度が商品の価値を左右する養殖マダイなどの魚介類にとって、このスピードアップは大きな利点となり、京阪神をはじめとする大消費地へ高品質な状態で出荷できるようになったことが生産量拡大の要因です。